

愛知県で出前講座を開催しました

令和6年2月9日（金）に愛知県女性総合センター（ウィルあいち）にて、愛知県や愛知県内市町村の職員を対象に、東日本大震災からの復旧・復興に関する出前講座を開催しました。

今回の出前講座では初めて、被災市町の具体的な取り組みを紹介するため、石巻市職員にも同行いただき講演を実施しました。講座は3部構成で実施し、第1部では防災砂防課から災害に強いまちづくり宮城モデルや発災後の初動対応などについて、第2部では都市計画課から県内の復興まちづくり事業について説明しました。そして第3部では石巻市より、市におけるまちづくりの進め方や住民対応などについて講演されました。

当日は愛知県や愛知県内市町村および外郭団体職員など、合わせて130名と多くの方に参加いただきました。参加者アンケートによると、ほぼすべての方が講演に「満足」と回答したほか、各講義に対しても「業務の参考になった」、「有意義であった」という内容の感想を多くいただきました。また、第3部の石巻市の講演に対しては「すごく熱い思いが伝わった」、「被災後のリアリティーを感じた」というような感想も多く寄せられ、臨場感を持って聴講いただけたことが分かりました。

引き続き、東日本大震災の被災経験や教訓を、各自治体の災害対策に活かしてもらえるよう、取り組みを継続していきます。

↓愛知県ホームページでも掲載いただきました↓

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kensetsu-kikaku/0311fukkyufukko2.html>

出前講座の状況





質疑応答の様子



質疑応答の様子



パネル展の様子
(愛知県庁地下通路)



パネル展の様子
(出前講座会場)

【受講後のアンケート(一部抜粋)】

● 第1部について

- 特に発災後の初動対応について、実際の事務所職員の行動を細かく説明いただいたことが印象に残っている。港に近い事務所にもかかわらず一般住民が多く避難してきたこと、事務所自体壊滅的な被害を受けたこと、そのような状況の中職員が住民のため避難路を確保したことなど、今後起こりうる大規模災害に向けて準備をしておかなければと強く感じた。
- 内容が分かりやすくまとめられていた。話す内容を考慮すると時間が不足したかという印象。せっかくの演者であったので、震災後入庁の若手ならではの話というのも聞いてみたかった。

● 第2部について

- 時間経過に伴い変化する諸課題への対応の表が、復旧・復興の指針として分かり易かった。また、具体例もあり良かったが、第一部の感想でも書いたが、苦労した部分も聞きたかった。
- 実際に復興まちづくりを行うのは市だが、これをスムーズに行うために先回りして行動していたことが印象に残った。大規模災害が発生した際、市町村は住民の対応に追われ復興を目指すところまで力が回らないと予想されるため、市町村・住民のため県にできることを理解し適切に行動したいと感じた。

● 第3部について

- 大変思いのこもった内容と、市民とのやり取りなど、実感を持って、被災時の状況を感じることができました。
- 伝承の重要性を確認した。また、復興計画への素早い対応には驚きが隠せなかった。個人的にも被災している中、石巻市の未来に向けた計画を被災直後から立案できることが、自分に置き換えてできるか考えさせられた。
- 震災当初の仮設住居完了までの間の苦労の様子がよくわかりました。派遣職員がお役にたち、自分のことのように嬉しく聞かせていただきました。「復興は派遣職員のおかげだ」と述べられ、派遣経験者として苦労が報われた思いです。熱意溢れるご講演ありがとうございました。機会があれば今後も他の自治体での講演を期待しています。

etc...